

公認心理師受験資格の経過措置に伴う読み替え科目対照表【2020/1/31 時点】

(H20～H30 年度) 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程障害科学専攻
(H2～H20 年度) 筑波大学大学院教育研究科障害児教育専攻

公認心理師法附則第二条第一項第一号及び同項第二号における特例措置（いわゆる D ルート）により、公認心理師の受験資格を得るために必要な科目に該当すると判断される本専攻開設の科目名は下記の通りです。

大学院における必要な科目	本専攻で対応する開講科目	開講年度	要件		
I ① 保健医療分野に関する理論と支援の展開	行動臨床心理学	H16～H30	①・②・③から各1科目必須		
	知的障害病態生理学	H25～H30			
	知的障害病態生理学特講 A	H20～H24			
	知的障害病態生理特講	H19～H20			
	知的障害病態生理特講 I	H12～H18			
	知的障害病態生理特講 II	H12～H18			
	知能障害病態生理特講 I	H2 ～H11			
	知能障害病態生理特講 II	H2 ～H11			
	② 福祉分野に関する理論と支援の展開	臨床発達心理学		H12～H30	
		福祉心理学		H11～H24	
		知的障害心理学		H25～H30	
		知的障害教育心理学		H12～H20	
		知能障害教育心理学		H2 ～H11	
	③ 教育分野に関する理論と支援の展開	知的・発達障害指導法特講		H25～H30	
		発達障害心理・指導法特講 A		H20～H24	
		知的障害指導法特講 I		H12～H20	
		知的障害指導法特講 II		H12～H20	
		知能障害指導法特講 I		H2 ～H11	
		知能障害指導法特講 II		H2 ～H11	
		言語・コミュニケーション障害		H25～H30	
		教育実践学特講			
		音声・言語障害教育学特講 A		H20～H24	
		言語障害指導法		H2 ～H20	
		言語障害学特講		H2 ～H20	
	④ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	(該当なし)			
	⑤ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開	(該当なし)			

Ⅱ ⑥ 心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床発達心理査定法特講	H20～H30	⑥～⑨から2科目以上必須
	臨床心理査定特講	H16～H20	
	知的・発達障害心理学特講	H25～H30	
	知的障害心理学特講 A	H20～H24	
	知的障害心理特講	H19～H20	
	知的障害心理特講 I	H12～H18	
	知的障害心理特講 II	H12～H18	
	知能障害心理特講 I	H2 ～H11	
	知能障害心理特講 II	H2 ～H11	
⑦ 心理支援に関する理論と実践	行動問題面接指導法特講	H16～H30	
	行動障害治療教育論	H14～H15	
	行動情緒障害治療教育論	H13	
	行動・情緒障害治療教育論	H2 ～H12	
⑧ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	障害支援保育論	H25～H30	
	障害児保育論	H13～H24	
⑨ 心の健康教育に関する理論と実践	教育臨床発達援助論	H16～H30	
Ⅲ ⑩ 心理実践実習	自閉症スペクトラム障害専門実習	H20～H30	⑩から1科目必須
	行動障害臨床実習	H16～H20	
	行動障害治療教育実習	H14～H15	
	行動・情緒障害治療教育実習	H2 ～H13	
	臨床発達心理学実習 I	H20～H27	
	臨床発達心理学実習 II	H20～H27	
	臨床発達心理学実習 A	H17～H20	
	臨床発達心理学実習 B	H17～H20	
	発達障害教育開発演習	H28～H30	
	知的・発達障害臨床実習	H20～H22	
	知的障害臨床実習	H16～H20	
	知的障害治療教育実習	H12～H15	
	知能障害治療教育実習	H4 ～H11	
	知能障害治療教育法実習	H2 ～H3	

※受験資格を得るためには、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの全ての要件を満たす必要がある

※Ⅰ：①・②・③から各1科目の履修が必要。④・⑤は本専攻では該当開講科目なし

(同一番号内の開講科目は複数履修しても1科目と数える。例えば、②のみで3科目の履修は不可となる)

※Ⅱ：⑥～⑨から2科目以上の履修が必要

(同一番号内の開講科目は複数履修しても1科目と数える。例えば、⑥のみで2科目の履修は不可となる)

※Ⅲ：⑩から1科目の履修が必要

※一つの必要な科目に対応している開講科目を、他の必要な科目に対応する科目として記入することはできない

※本対照表は現段階でのものであり、今後の通知等を受けて、修正することがある